

# わくわくドキドキならはらテクテク

2026. 4. 12 NO.3 ならはらの森なかの学舎



なら原っ子「うわあー。なんだこりゃ？モンタ博士！ハチがいっぱいですね。」

モンタ博士「今日はね、ハチや巣の標本をあれこれと持って来たのさ。」

なら原っ子「いろいろとありますね。こりゃおもしろそうですね。」

モンタ博士「そう言ってもらえると、モンタ博士も飛び上がるくらいにうれしいよ。」

まずは、スズメバチやアシナガバチの巣とハチの標本を見てね」



なら原っ子「こうやって、ハチと巣がいっしょの標本って、いいですね。」

なら原っ子「そうだね。それにしても、いろいろな巣があるんですね。」

なら原っ子「左上の巣は、とても大きな穴なんですね。」

モンタ博士「これはね、穴というのではなくて、育房（いくぼう）というもので、ハチの幼虫がここで育つわけなんだよ。左上は、オオスズメバチだよ。」

なら原っ子「うわあー。すごい大きいんですね。他とくらべると大ちがいで迫力あるね。」

なら原っ子「ぼく、初めて見ました。モンタ博士が自分で採ったのですか。」

モンタ博士「これはね、友達からもらったものなんだ。土の中や木のむろなどにあるんだ。」

なら原っ子「一番右は、とても長細い巣なんですね。」

モンタ博士「これは、ヒメホソアシナガバチというハチの巣なんだ。あちこちにあるよ。」

なら原っ子「へえー。そうなんだ。ぼく、初めて見ました。ところで、モンタ博士！ハチの巣はどれもみんな、六角形をしているんですね。」

モンタ博士「すばらしい！そのとおりだよ。ただ見ているだけでなく、よく気がついたね。えらいね。感心だね。ブラボーだよ。」

なら原っ子「モンタ博士！なぜ六角形なんですか。ぼく、どうしても知りたいです。」

モンタ博士「それには、ちゃんとした理由があるんだよ。それを話すと長くなるんだよ。こまったな。」

なら原っ子「そうですね。標本のお話も聞きたいし、標本も見たいし。」

モンタ博士「そうだ。『ハチ講座』だ。」

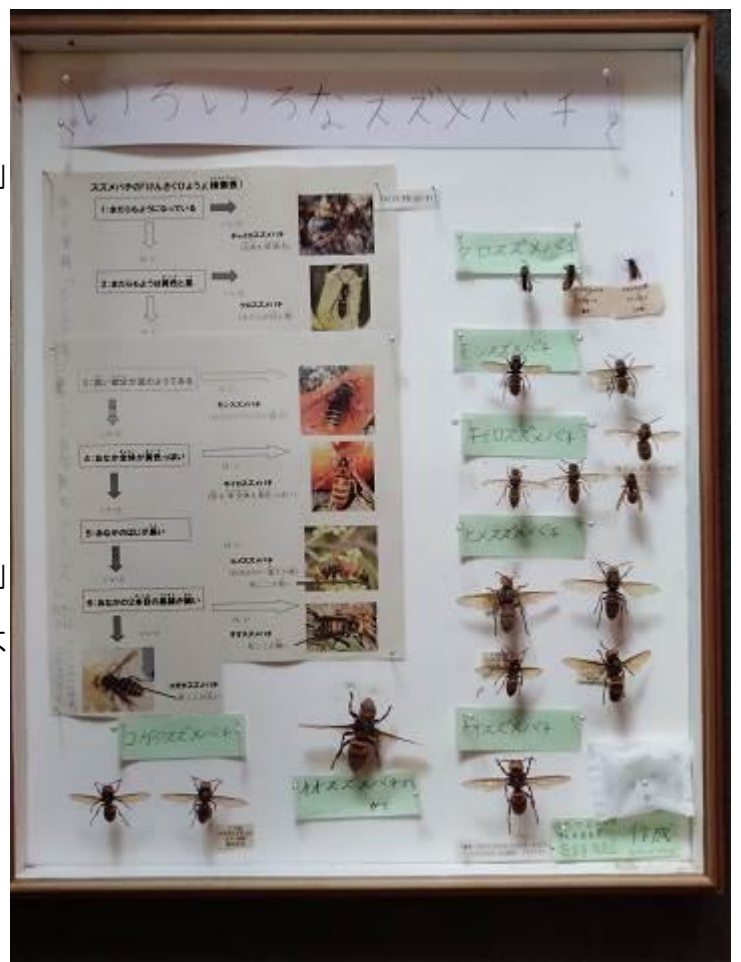
なら原っ子「『ハチ講座』？何だろう？」

なら原っ子「あ！この前、『貝講座』というのがあったけど、それと同じ。」

モンタ博士「そうだ。次号からやるね。では右の写真だけど、これはね、スズメバチのけんさく表さ。」

なら原っ子「いろいろいるんですね。」

モンタ博士「そうだよ。ほとんど自分で、



採集したんだよ。これは昔、副校長をしている時に、ハチの好きな子どもたちといっしょに作ったのさ。右下にはお手伝いしてくれた子の名もあるよ。」

なら原っ子「これはを見れば、スズメバチはバッチリということですね。」

モンタ博士「そうだよ。スズメバチは怖い怖いと言っているだけではダメなんだ。どんなヤツなのか。しっかりと理解することが大切だと思うんだよね。」

なら原っ子「その通りですね。あれ？もう一つ標本があるみたいですね。」

モンタ博士「これはね、いろいろなハチがごちゃごちゃと入っているんだよ。」

なら原っ子「どんなハチがいるのかな。」

モンタ博士「そうだね。ハナバチや、ジガバチ、ツチバチなどの狩りバチ・寄生バチもいるよ。」

なら原っ子「左上はガみたいですね。」

モンタ博士「そうだね。大きいのはヨナグニサンという世界一大きいガさ。もらいものだけどね。」

なら原っ子「今、もっと大きいガが発見されたらいいですよ。」

モンタ博士「ほほー。そうなんだ。教えてくれてどうもありがとう。」



なら原っ子「いろいろありますが、特にモンタ博士がお気に入り、というハチは何というハチですか。」

モンタ博士「一番のお気に入りは、何と言っても『ウマノオバチ』だね。右の写真の産卵管のめちゃくちゃ長いハチだよ。」

なら原っ子「うわあー。本当だ。とっても長いんですね。」

モンタ博士「ウマノオバチというのはね、馬の尾のように長い産卵管があってね、この名前になったのさ。なぜ、こんなに長い産卵管が必要かというと、ミヤマカミキリのサナギに寄生するためなんだ。」



なら原っ子「なるほど、そういうことなんですね。細いすきまをぬって、木の奥にいるカ  
ミキリムシに差し込むなんて、本当にすごいですね。不思議ですね。」

モンタ博士「そうだね。産卵管にはいろいろなセンサーがあって、カミキリムシの  
居所がわかるんだろうけど、すごい能力なんで感心してしまうね。」

※注…これまで、寄生主はシロスジカミキリと言われていたけど、近年の研究では、  
ミヤマカミキリであるということが判明したそうです。

※以下、ハチの標本観察会の様子を写真で紹介します。楽しんで見てください。

